

氏名	杉田 孝夫 SUGITA Takao
所属 職名	人間文化創成科学研究科人間科学系 教授
学位	文学修士（1978 東京教育大学）
専門分野	政治学、西洋政治思想史、
URL	http://www.soc.ocha.ac.jp/sugita/%90%99%93c%83g%83b%83v%83y%81%5B%83W
E-mail	sugita.takao@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

西洋政治思想史

ドイツ啓蒙

ドイツ観念論

カント・フィヒテ・ヘーゲル

家族と市民社会

History of Political Thought in Europe

German Enlightenment

German Idealism

Kant, Fichte, Hegel

Family and Civil Society

主要業績

(翻訳) ディーター・シュヴァーブ著、杉田孝夫・田崎聖子訳「家族の概念史」(III 完)『生活社会科学研究』第17号、2010年11月、101頁-117頁。

(学会シンポジウム報告) 「啓蒙思潮とドイツ観念論期の政治思想?共和制をめぐる言説に着目して?」日本ヘーゲル学会第12回研究大会シンポジウム「啓蒙からの流れの中でのヘーゲル」での提題、2010年12月25日、新潟大学

(研究セミナー招待講演) 「バイザー「啓蒙・革命・ロマン主義」を読む」大陸自由主義研究会/科学研究費研究会第3回講演セミナー、2011年1月8日、関西学院大学

(書評) 「公共哲学」論の問題提起に対して『法の哲学』のアクチュアリティを対置 ?近代社会を構成する「家族」「市民社会」「国家」の概念枠組みを再検証する? (福吉勝男『現代の公共哲学とヘーゲル』(未来社、2010年))『図書新聞』第2985号、2010年10月9日。

研究内容 / Research Pursuits

ドイツ啓蒙とドイツ観念論の政治思想史研究 (1) とくにカント、フィヒテ、ヘーゲルの政治思想の諸問題をかれらの共通枠組みである「自由と共同性」の位相を同時代的文脈の中で再検討し、その歴史的固有性を明らかにする作業を行っている。(2) 第二の主題として、カント、フィヒテ、ヘーゲルの家族観を、ドイツにおける「近代家族」の形成過程を示すテキストと捉えて、家族の構成と機能を分析し、同時代の社会構造の転換とどのように構造的に連関するものであるかを明らかにする作業をおこなっている。この作業は必然的に家長のものと近代家族と家長を主体とする近代社会の構造的秘密を明らかにするものであり、近代におけるジェンダーの思想的作為性と歴史性を明らかにする作業でもある。(3) 以上の二つの側面からの研究によって現代社会における自由と共同性をめぐる問題状況を克服する理論的展望を得ることを目指している。とくに政治思想史の立場から個の生成と家族と市民社会の構造的連関を研究している。

I am chiefly interested in the intellectual history of modern Europe, and with this area I specialize in two related fields. One is the political thought of Modern Germany, especially German Enlightenment and German Idealism. The other is the genesis of

■ 教育内容 / Educational Pursuits

学部講義「生活政治学I」「生活政治学II」では、第2学年を主対象に、現代デモクラシーの主体である生活者市民にとって必要な政治学の基礎理論を講義した。学部演習「生活政治学演習I」「生活政治学演習II」では、ジャン・ジャック・ルソー『学問芸術論』『人間不平等起源論』『政治経済論』『社会契約論』を講読した。大学院演習『生活政治論』『生活政治論演習』ではカント『人倫の形而上学』の「法論の部」の「公法」の部分逐語的に講読した。

I lecture on Scope and Theory of Political Science, and on the foundation of Modern Civil Society and Family., and run two seminar. One is for the Theory of Civil Society(in undergraduate senior course) and another for intellectual history of Europe(in

■ 研究計画

(1) フィヒテ全集『第16巻 封鎖商業国家論』および『第17巻 ドイツ国民に告ぐ』の担当部分を仕上げるのが当面の仕事である。(2)『ドイツ観念論の家族観—ドイツにおける近代家族概念の成立—』および『フィヒテの政治思想』をそれぞれ一冊にまとめたことを考えている。(3)ドイツ啓蒙の思想家のうち、ヤコービとフンボルトの政治思想、およびフンボルトのジェンダー論については、18世紀ドイツ思想を理解するうえで重要な対象であるにもかかわらず日本ではまったく手つかずの状態にある。ドイツ観念論の政治思想史研究に一区切りついたならば、ヤコービとフンボルトの研究を行いたい。

■ メッセージ

政治学は古来教養の学として長い伝統を築いてきました。近代以前においては統治者の教養の学あるいは統治の技術でした。政治学は役人や政治家になるための学問であるという見解が生まれた原因はそのような伝統に起因します。しかし統治者＝被治者の時代であるデモクラシーの現代においては、政治学はまず第一にすべての市民の教養の学でなければなりません。政治の世界は、人間が生きている間は絶えず試され、問い続けなければならない実践知の世界です。そのように考えると私たちはいつでもどこでもなんらかの政治のただ中にいることに気づきます。人生は、そこで得られる疑問や経験を手掛かりにして「善く生きる」ための知の探求の旅です。政治学はそのような旅の指南書の一つと言えます。